

松山委員長 挨拶

お忙しいなか、参加いただきありがとうございます。

今、代表者会議は、ＪＲ総連より除名処分を受けた事があつての開催であります。急な開催となり、申し訳ないです。説明の場として、各地出向いて説明をして行きたいと考えています。また、旗開きについても早期にスケジュールを決めまして、参加をお願いしながら、現状の説明を行っていきたいと考えています。

ＪＲ総連からの除名により、今後、総合共済や鉄道ファミリーを代理店とした各種保険等についても影響が出て来ると考えられます。不利益とならないよう、現在本部では検討・問い合わせを行っている所であります。１０月５日には全地本総務担当者会議が開催され、福利・厚生を議題として検討しています。今後ははっきりと分かってきましたらお知らせすることになります。

組合員そしてＯＢの皆さんには、この間ご心配おかけしましたことをお詫び申しあげます。

ＪＲ総連は６月３日の定期大会において統制委員会を設置しました。これまで東海労としては書面での弁明を行って来ました。

そして、９月１２日のＪＲ総連臨時大会において統制委員会から除名の答申がされ、大会において議決されました。わずか３ヶ月間の間で足早に結論を出すという、時間をかけて議論するという姿勢は全くありません、一刻も早く東海労を除名したい。そんな思いが透けて見えます。

東海労としては、これまでコロナ禍の間を含めて多くの組合員が強制出向で出向させられてきました。本体職場に残る組合員が減少する中で、職場からの闘いを創り出すことや、東海労として関連会社・出向先会社での組織化を方針として掲げてきました。

その中で、関西にて取り組みがＪＳ労、名古屋における取り組みがＣＭＣでの組織拡大の実現であります。

職場で困っている人の声を拾っていく。救っていく。それが東海労の活動の基礎であると思います。

それは、私自身もハラスメントを受けた中で、東海労に助けを求めた身で、経験したこともあります。親身になって関わっていただきました。そんな先輩の皆さんの闘いの、活動の姿勢を見て、私自身も東海労運動、職場からの闘いを創るため奮闘をしています。そして、そのなかでＣＭＣ山下さんの加入を克ち取り、地本として団交を行い、ＣＭＣ内でハラスメントを行う管理者を放逐する闘いを創ってきました。ＪＳ労も同様の思いでの結成です。しかしながら、ＪＲ総連に全て否定をされてしまいました。原点である職場からの闘いを、全否定です。

ＪＲ総連はこれまで総連連絡を発出し、無理難題を押し付け、意図的に問題を作り上げてきました。当初は２重加盟を含めて理解を示していたのにも関わらず、急に態度が変わったのです。

東海労としては２月１１日の定期中央委員会において、「ボタンのかけ違いを解消す

るためにも、三者会談を実現して、組織問題を解決しよう。」との発言があり、JR 総連・山口委員長は「本部からの要請があれば検討する」と述べたにもかかわらず、この対応は直ぐ一変し、JR 総連は「議論の場は必要ない」との見解を出しました。

JR 総連は、「東海労は総連連絡に対して何もしていない。」と主張されていますが、東海労として総連連絡に対しては、冷静にその都度対応・回答しています。決して喧嘩をしているわけでもありません。しかし、嘘やでっち上げにより悪者に仕立て上げられ、批難を受けてきました。東海労を「除名」とするための台本があって、そのストーリーに基づき「除名」を作り上げてこられたのがこれまでの経過です。

JR 総連臨時大会では、東海労から総連への組織化を求め、東海労破壊を匂わせる発言があり、総括答弁にて検討を進めていくと回答されています。

今後、名古屋地本として、一切の組織破壊を許さず、職場からの闘いを原点に運動を創っていくために一致団結していく必要があります。

全組合員の皆さん、そしてOBの皆さんのお力添えを頂きながら運動を創っていきたいと思います。大変な状況ではありますが、みなさんよろしくお願いします。

以 上